

「わっせよか長島」と言えるように



1月16日、長島の子表彰式が町文化ホールで開催されました。これは、児童生徒の個性やよさを認め表彰することで、心身ともに健全な子どもを地域で育てる」ことを目的としています。今年は、町内の小学6年生94人と中学生4人に賞状とメダル、記念品が贈られました。受賞者を代表して崎野凌雅さん（城川内小）が「長島の一人として認められた気がしてうれしく思うと共に、その責任を感じる。『わっせよか長島』と人に紹介できるよう長島町に誇りを持ち、がんばっていきたい」とお礼の言葉を述べました。



地域交流のために

みんなの食堂・すいせんの花

1月17日、指江自治公民館で、長島町ひとり親寡婦福祉会「すいせんの花」をはじめ、地域ボランティアや民生委員、社会福祉協議会が協力して「みんなの食堂・すいせんの花」を開催しました。

10回目となる今回は、カレー・唐揚げ・サラダなどをのせたプレート50食と、持ち帰り用のお弁当30食のほか、ブリの刺身や島みかんなどの提供もあり、午前11時半の開始とともに同時に近所の子どもたちや地域住民が訪れ、おじしい食事と交流を楽しんでいました。

まだまだ使えるお宝がいっぱい



1月18日、町総合市民体育館で「お宝市」を開催し、12月21日に実施した「リユースの日」で回収した食器や衣類、雑貨などのリユース品を無料配布しました。

リユース・リサイクルの仕組みづくり、ごみ減量化の取り組みの一環として実施した今回の「お宝市」では、約320人が来場し、503点の品をリユース品として再利用されました。

参加した豊嶋幸子さん（本浦）は「初めて参加したが、お宝の山でうれしい。定期的に開催してほしい」と話しました。



製氷工場建設に向けて

北さつま漁業協同組合要望書提出

1月22日、北さつま漁業協同組合（鶴長洋一代表理事組合長）が製氷工場建設事業に関する要望書を町へ提出しました。

同組合長島支所の管轄する漁港では、民間の地元養殖経営体から氷を調達していましたが、老朽化が進んだため組合が新設を検討。整備後は、水産物の品質向上や流通の円滑化、ブランド力の強化に大きく寄与する見込みです。川添町長は「国や県にも働きかけている。町としては、できる限りの補助と支援を行い最善を尽くしたい」と回答しました。

